

岩手・宮城内陸地震から7年

2008年6月14日午前8時43分に、岩手県・宮城県の県境付近を震源地とする、直下型の大変大きな地震が発生しました。地震の規模はマグニチュード7.2を記録し、岩手県と宮城県では最大震度6強を観測しました。

一関市巖美町祭時（まつるべ）にある地震計では4,022ガルの最大加速度が記録されました。地震等に観測された地表最大加速度の世界記録として、ギネスブックの認定を受けています。（ちなみに、東海・南海トラフ上に立地している、世界一危険な原発、浜岡原発（中部電力、静岡県御前崎市）の再稼働申請の最大加速度の想定基準値は、1,200ガルです。）

胸の痛み あの時のまま 栗原（宮城県）で遺族献花

「岩手・宮城内陸地震から6月14日で7年を迎えるのを前に、13人が死亡し、6人が行方不明となった栗原市で13日、遺族や佐藤勇市長らが3カ所の慰霊碑に花を供え、冥福を祈った。

栗原氏花山の慰霊碑では遺族や地元関係者ら約20人が黙とうと献花した。

弟の仙台市泉区、会社員森正弘さん＝当時（61）一夫婦を亡くした青葉区の主婦伊藤千秋さん（72）は「ここ来ると地震の直後を思い出す。過ぎてしまえばあつという間の7年。気持ちは切り替えられない。何につけても弟夫婦を思い返している」と話した。

栗原氏栗駒では遺族らが、市の設置した碑と、駒の湯温泉を経営していた菅原昭夫さん（59）らが建立した慰霊碑に花を供えた。

駒の湯温泉の従業員だった高橋恵子さん＝当時（55）＝の娘、菅原恵美さん（38）＝栗原氏若柳＝は「毎年慰霊碑に来るが、1年が短く感じる。さみしい。手を合わせながら『母に会いたい』と思った」と亡き母をしのんだ。

佐藤市長は「この地で起きた悲惨な災害を忘れてはいけない。自然災害にどう対処すればいいか。これからも考え続けていきたい」と述べた。」

山麓 深い傷今も

「岩手・宮城内陸地震で震度6強を観測した栗原氏の栗駒山麓では、大規模地滑りや山腹崩壊が多発し、山地災害の威力をみせつけた。14日で発生から丸7年。国内最大級の地滑りにより、山塊が水平方向に最大300mスライドした同市栗駒の荒砥沢崩落地周辺は、今も一般の立ち入りが禁止され、治山や砂防の工事が続く。約210万㎡の崩落土砂が迫川をせき止めた同市花山の湯浜地区では、巨大な砂防えん堤建設が進む。」（「河北新報」15年6月14日付け）

岩手・宮城内陸地震

【人的被害】死者 13名、行方不明 10名、重軽症者 426名

【住家被害】全壊 30棟、半壊 146棟、一部損壊 2,521棟、火災 4棟

【震災遺構 手前は橋げたが落ちた祭時(まつるべ)大橋 遠くは矢びつダム(一関市)】



【栗駒高原と言えば 須川(すかわ)温泉(岩手県・秋田県)】

